

一般会議報告書

開催日時	令和6年 2月26日(月) 午後3時30分～午後5時19分					
会場	八雲町役場3階 議員控室					
団体名等	株式会社木蓮					
参加者数	7名					
出席議員	安藤辰行、大久保建一、倉地清子、関口正博、三澤公雄、宮本雅晴、横田喜世志、赤井睦美、佐藤智子、斎藤 實、能登谷正人、黒島竹満、千葉 隆					
役割分担	司会者	関口	記録者	倉地	記録者	
会議のテーマ	・木蓮の現状と今後について ・八雲町の将来					
意見交換等	別紙のとおり					

上記のとおり提出します。

令和6年 4月 2日

八雲町議会議長 千葉 隆 様

記録者 倉地清子

別紙

○木蓮の現状と今後について

○八雲町の将来

〈団体〉

木蓮とはどんな会社かなかなか周知されていない。木蓮を知ってもらい木蓮の現状を伝えたい。理念は「創造・倫理・実践」を基に企業の創設、事業継承、就業を民間の力で。

事業は ペコレラ、高校生の連帯、丘の駅の運営、木彫り熊グッズの販売。

昨年、代表取締役が変わり、取りかかったのが財務内容である。丘の駅は、令和2年にコロナで収入が落ち込んだ。この時に丘の駅が観光物産協会から木蓮に移ってきて、丘の駅の収入源を木蓮の運営の一部にすることとなった。また、町から企業版ふるさと納税の手数料が入ってきている。企業版ふるさと納税については、営業努力が足りない状況と認識しているが、ひとつの民間会社が行っても取り合ってくれるものではない。町のトップなどがいくことで効果が出ると思っている。

木蓮本部の令和5年度の収支と実績、赤字の見込みであるため、8月に各事業を見直し、10月、人員の整理に踏み切った。木彫り熊グッズなどを丘の駅に移し、本社は各事業の指導をすることに。本社の人員は社長と経理課長の2人になった。これから説明する事業に対し、継続するか否かを判断してもらえればと思っている。

〈団体〉

ペコレラのビジョンとしては、「地方の日々を面白くするイノベーションを生み出していって、地方が主役になって地方が主役になる世界を作りたい」というのを掲げていて、それをペコレラが担っているという感じで事業をやっている。

キャンプ、星空ガイド、エコ広場、研修会の場所提供、かまくらイベント、雪の運動会、修学旅行のご飯を食べる場所提供、合宿利用、ワーケーション、体験観光などの事業を行っている。ペコレラの役割は、関係人口の入り口。八雲を知る・八雲を好きになる導線ができています。平均滞在日数は4日、リピート率30%で、八雲移住者は10人います。「観光以上移住未満」といって、移住はしなくても、地域に貢献し、地域に根差している人と関わりを持つイベントに参加という人が増えることで情報や刺激を与えて、そこからチャレンジが外や内から生まれていく可能性がある。

人材育成は、施設管理・マネジメント・企画など、道南での活動増えている。他地域から、廃校を使ってみたくて、相談を受けることもあった。コンサルやアドバイザーとして出向くこともある。

〈団体〉

ビジネス科の高校生と関わっている。同じ目線で高校生が話してくれるように工夫して関わるよう心がけている。

商売の基本である「仕入れ・売る」ということで、駄菓子屋を始めて、品物・値段・販売の場所・売上・仕入・利益・損失など細かな計算することを高校生が学べるような活動を、人材育成のひとつとして実施した。

〈議員〉

木蓮は、後から丘の駅がくっついてきたから、それに関しては儲けなければいけないが、木蓮は儲

ける会社ではないと思っている。しかしお金かけなければ人材は育たない。そういった中で頑張っていると思うが、人材育成をしているペコレラと研修牧場はどのような関係となっているのか。

〈団体〉

建物は元々研修牧場のもので、日大から町で買い戻した。何か事業をするということで、ペコレラ学舎を作り、そこから輪を広げていろいろとやってきた。ペコレラ運営以外に青年舎の研修棟の掃除を委託されている。

〈議員〉

八雲高校との関係について、やっと成果が表れたと感じている。

ペコレラについては関係人口に関し、一步も二歩も進んでいくことができる可能性ある。この頑張りを大いに評価したい。

企業版ふるさと納税は少なくなってきたが、それでも上向きになってきているので、これからも頑張ってもらいたい。

〈議員〉

丘の駅、頑張っている印象持ちました。運営費がすべて合算されて赤字になっている状況。ここをしっかりとしないと。

〈団体〉

丘の駅自体は運営できる。何故丘の駅の儲けを人材育成につぎ込むのかという話もあったが、丘も駅も木蓮の一つの事業であり、店長、副店長はやる気になってくれているため、心配はしていない。

〈団体〉

丘の駅は民間企業になって一番変わった。危機感もあり、自分たちで稼がなければと理解しているが、丘の駅とペコレラの二重運営をやっていくことは持続可能なものになっていない。

稼ぐ力を持ちながら人材育成をして会社を持続可能なかたちにして、極端な利益を出さないようにしながら人材育成していかなければならないので、株式会社の形態としてはとても難しい。

〈議員〉

木蓮から青年舎への出資金の扱いはどのようにになっているか。

〈団体〉

青年舎から受けている恩恵は出資金の額以上にとても大きいと思っている。建物をどっちが管理するのか決まっていなかったが、学校という造りから維持費・修繕費などは莫大なものになることから、木蓮単体では管理は難しい。持ちつ持たれつという部分はある。

〈議員〉

木蓮という会社を議会や町がどのように見るか。町からの出資比率からも限りなく直営に近い企業ということを町や議会が認識しなければならない。限りなく直営に近い企業に対する責任とはどうあるべきか。

るべきか。資産を超える債務超過になった場合は、再建計画をつくらなければならない。このような意識でなければならないと思う。

そこで、交流人口に町がもう一步、ただ連携するだけでなく、助成するような、応援するような計画を作ってもらえれば根拠ができる。議会というものは提案はできるが理事者ではないからそこが難しいところ。そういう意味でも意識改革をしていかないとならないと思っている。